

## ノルウェーのコミュニティ音楽療法—理論・実践・教育

杉田政夫 (福島大学人間発達文化学類)

コミュニティ音楽療法とは、参加者のリソースを尊重し、彼ら彼女らを取り巻く社会・文化的コンテクストに傾注しつつ、時にその問題とも対峙することで、より良い社会の実現までを目指す枠組みである。人権、平等、社会正義といった論点を、音楽療法をめぐる国際的論議の中心に据える等の貢献をなしており、過去 20 年以上にわたり、最も重要なムーブメントと目されている。本講習会では、これまで 6 度にわたり実施してきたノルウェーでの実地調査をベースに、同音楽療法の理論・実践・教育を総合的に検討することでその実相を呈示するとともに、日本への示唆について考えてみたい。

理論的には、コミュニティ音楽療法を特徴づける 7 つの諸特性（参加型、リソース志向、生態学的、パフォーマンス的、活動家的、省察的、倫理推進的）、及びそれを支える諸価値（自由、平等、敬意、民主的プロセス、社会正義）について、ブリュンユルフ・スティーゲ（Stige, B.）へのインタビュー内容も交えながら検討する。そして近年、スティーゲが音楽教育哲学の論争などを参照しつつ高く価値づけている「芸術的市民権（artistic citizenship）」の概念を取り上げたい。実践的には、ノルウェーの文化施設、コミュニティ・センター、刑務所、病院等への訪問調査、参与観察の様子をお示しする。

教育面については、ノルウェーにおける音楽療法士養成カリキュラムに焦点を当てる。同国で資格を付与しているのは、ノルウェー国立音楽大学とベルゲン大学のみであり、エヴェン・ルード（Ruud, E.）やスティーゲらへの聞き取り調査をもとに、両大学の比較を含め、音楽療法士養成の制度や教育の特質について説明する。さらに、ノルウェーにおいてコミュニティ音楽療法の理論・実践・教育を統合する機能を果たしている POLYFON にも焦点を当てる。これは、同国の健康ガイドラインにおいて音楽療法が強く推奨されたことを受け、将来的な医療認定化を見据え、質の高い音楽療法士を短期間に増やすため、研究機関、養成教育、実践現場、支援団体をネットワーク化するプロジェクトのことである。

最後に、日本国内における実践事例を取り上げ、コミュニティ音楽療法の視角から検討することで、可能性や課題について考えてみたい。

### ■プロフィール

音楽教育の歴史と哲学を主たるフィールドとする。民主主義と社会正義に立脚したノルウェーのコミュニティ音楽療法に着眼し、実地調査を中心に理論と実践を探究している。スティーゲ他著『コミュニティ音楽療法への招待』（風間書房、2019 年）監訳の他、「ノルウェーにおけるコミュニティ音楽療法の実践 —刑務所、及び出所後の音楽活動—」『福島大学地域創造』（2022 年）、「ノルウェーにおけるコミュニティ音楽療法の今日的展開に関する研究 —スティーゲへのインタビュー及び実践現場への訪問調査を中心に—」『福島大学地域創造』（2021 年）他、関連論文多数。